

青森県の留学生広報 **あそさ** WEB版 第21号

発行: 青森県留学生交流推進協議会 (ASOSA: The Association of Supporting Organizations for Students from Abroad in Aomori)

会報あそさ 目次

Index of ASOSA

留学生の声

Int'l Student's Voices

トピックス

Topics

留学生交流行事

Int'l Exchange Events

留学生関連資料

Archives

関係機関リンク

Link

お問合せ

Contact

発行
青森県留学生交流推進協議会
〒028-8580 青森県大森町・緑地
弘前大学 学務部留学生課
TEL 0112-38-1159
FAX 0112-38-1112



第17回青森県留学生交流ジャンボリー (2010年8月28日 於: 奥入瀬渓流・錦子大滝)

青森県留学生交流推進協議会 (ASOSA)

The Association of Supporting Organizations for Students from Abroad in Aomori

巻頭言

グローバル時代の留学生問題

青森公立大学

学長 佐々木恒男



グローバル化が進展し、日本の企業にも国籍というものがなくなりつつある。日本企業の内部共通言語は英語に統一され、新卒採用の大きな部分を海外の大学卒業生や海外からの留学生が占めるようになりつつある。このような状況下での我が国における留学生問題には、次のような二つの懸念材料がある。

その一つは留学生の受け入れに関する問題である。かつて“Look East”といわれた時代の我が国は、世界の中でそれなりの存在感をもち、とりわけアジア諸国のリーダーとしての地位を占めていた。その時代の我が国は、目標とすべき成長モデルの国であり、アジア諸国の若者からは憧憬の眼差しで眺められる国家であった。ところが現在はどうか。日本はかつての輝きを失い、経済的には老化して、もはやこれ以上の成長は期待できない国家であり、政治的には安定性と信頼性を欠き、沈滞し閉塞した社会と捉えられている。海外の、とりわけアジアの意欲的な若者にとって、このように衰退しつつある日本が留学先として選ばれるわけではない。中国や韓国、インドの優秀な若者が、日本ではなくアメリカやヨーロッパを目指すのは当然のことである。彼らに、日本にはもはや学ぶべきことは何もないと思われる状況下で、留学生 30 万人受け入れ計画によって、どのような若者が、何をしに日本にやってくるのか。国際交流や高等教育の問題以外の深刻な問題が発生するだろう。

いま一つの問題は、内向きで安定志向の強い我が国の若者である。かつて大学生はバイトでせっせと資金を貯め、貧乏覚悟で海外に飛び出し、異文化を吸収して帰ってきた。大学教員も先を争うように海外留学のチャンスを求め、海外の先端的な研究を吸収し、海外の研究仲間を得て帰国し、留学経験をその後の研究や教育に生かした。ところが現在はどうか。大学が用意している学生向けの海外派遣枠は定員に充たず、再募集しても定員に達しない。教員向けの海外留学募集には、若手教員が応募しない。彼らは国内の研究仲間と共同研究するだけで満足のように、日本語で論文を書いている。現代の学生や若手研究者は、海外に出かけてさまざまな苦勞に遭遇するのが厭なようである。それよりも勝手知った国内で、悠々と安定した日常生活を過ごすのがいいらしい。欲しい情報はネットで探せば、何でも即座に手に入る。わざわざ苦勞して海外に出かけることはない。海外での面倒な対人関係は御免蒙りたい。日本から海外の大学への留学生が激減しているわけである。留学生受け入れと同様、留学生送り出しにも、このような深刻な問題がある。このような内向きの安定志向は、将来、我が国の国際的な孤立を招く要因になるだろう。

寄稿

留学生生活で学ぶもの

青森中央学院大学 国際交流センター長
大泉 常長



筆者は延べ5年間に及ぶスペイン留学の中で、2002年5月と2003年3月の2度に渡って、「テロに遭遇」という恐怖体験をしている。とりわけ前者においては、スペイン北部バスク地方の民族独立過激派 ETA（バスク祖国と自由）の車爆弾の衝撃を間近に見せられただけでなく、不幸にもその日サッカー観戦に訪れていた白人至上主義を訴える“ネオナチ”集団の腹いせの標的となり、事件現場の単なる野次馬に過ぎなかったはずの私は、激しい暴力行為を受ける羽目となった。死をも覚悟しながら、「十数人のスキンヘッドたちからの暴行」という嵐をやり過ごしたことは、決して忘れることができない苦い経験である。

それは僅か数分間に過ぎない出来事ではあったが、私は「テロリズム」と、極右翼グループによる「人種差別」というスペイン国民が抱える深刻な懸念材料であるふたつの暴力を同時に味わったことになる。しかしこのような精神的・肉体的打撃を受けた状況下でも、この国への拒絶感を払拭できたのは、それまでの留学生活における国際交流の中で、歴史と伝統を重んじるスペイン人たちの温情に触れていた恩恵であったことは間違いない。

幸か不幸か留学における特殊な経験を有している筆者であるが、様々な経験から生まれた疑問は、後に多くを学ぶことに繋がった。私自身、留学の醍醐味とは、己が育った社会環境とは異なる文化・生活習慣に触れ、未体験の思考や信仰を味わうことで培った忍耐力や想像力から、自らの新たなチャンネルを増やすことであると考えている。

現在、青森中央学院大学は、あおもりくらしの総合研究所との連携で、「青森サポーター事業」と名付けられた企画の中で、留学生に青森県の伝統文化、農林水産業への理解を深めてもらい、後にそれぞれが母国における青森県の PR 大使となってくれることに期待をしている。留学生たちはこの企画の作業体験やイベント参加を通して、この土地の地場産業を体験から学びながら、青森県が世界に誇る高品質のホタテやりんごを採りたての状態ですぐに食す機会を与えられる。

今年度で7年目を迎えるこの企画への参加者は年々増加傾向にあり、留学生たちが青森県の魅力の源泉を理解してくれるだけでなく、受け入れに協力下さる地域の方々が彼らとの国際交流に大変協力的であることが、日頃同じ母国語を話す留学生たちとばかり行動する傾向にある彼らの、日本のナショナル・イメージの形成に繋がっていることは、実に有難いことである。

この「青森サポーター事業」の成果が表れた例がある。現在上海の商社に勤務する本学の卒業生が、上海万博における「青森県ウィーク」の存在を知り、万博会場に駆けつけると、ボランティアとして青森の PR 活動にひと役買って出てくれた。青森を知り尽くしている元留学生が青森サポーターになった例であり、この事業が生んだ成果といえるだろう。

経済の国際化を背景に、政府は観光や就労を目的とした外国人の受け入れを積極的に進めつつあるが、このような流れの中で、多くの留学生たちが、前述したような地域との国際交流行事を通し、青森そして日本の魅力を総合的に理解することを望む。私自身がそうであったように、そこに本質への確固たる理解があれば、短所たる出来事も、素顔の一部にしか映らないだろう。

留学生の声

「青森—私の大切な雪の街」

青森中央学院大学大学院 地域マネジメント研究科1年

ヴォン・ゴ・フォン・ザン (ベトナム)



今から2年前、私は大阪市での短期文化交流プログラムに参加し、初めて来日の夢を叶えることができました。ベトナムに帰国した後、今度は留学生としてもう一度来日することを夢見て勉強を続けていましたが、青森に留学できると決まった時は、少し不安になりました。青森とはいったいどんなところなのか、どんな人たちが暮らしているのか、いくらインターネットで調べても、よく分からなかったからです。大阪はとても賑やかな街でしたが、青森のイメージはなかなか想像することができず、まるで遠い未知の国のように思えました。

青森という地名について、知り合いの日本人に「どうして『緑』じゃなくて『青』森なの？森といえば緑じゃない？」と聞いてみました。でも「そうだね、何で『青』なんだろうね…」という曖昧な返事しか返ってきません。そんな日本人でさえ悩んでしまうような名前の地で、平成21年秋、私は青森中央学院大学の学生になりました。熱帯の国ベトナムから初めて雪の街にやってきた私の目には、何もかもが新鮮に映り、うまく言葉に言い表せないほどでした。

晩秋の青森にエキゾチックな魅力を感じながら、私の留学生活は始まりました。壮大な赤褐色の山脈を目にした時には、「また新しい日本の一面を見つけた」と自分にささやきました。車やバイクで騒々しいハノイと違って、青森は静かで穏やかです。きらびやかな繁華街のある大阪に対して、青森は素朴で平和に感じられます。そしてここでは、どこにいても豊かな自然があります。ブナやカツラなどの自然林が広がり、野生の動物も生息しています。

さらに青森は、季節ごとの魅力を、色彩豊かに見せてくれます。春夏秋冬の季節感がはっきりしており、私の気持ちまで変わりそうです。十和田湖は、その四季折々の美しさで知られていますが、私は秋の十和田湖が一番好きです。友人と旅行で訪れて、初めてその絶景を満喫し、地球上で一番美しい場所だと思いました。雲間から光が差し込み、その光が水面に映って揺らめく情景は何とも神秘的で、湖面を見ていると心が洗われるようです。

冬がくると、深々と静かに降り積もる雪が幻想的で美しいです。雪は全てのものを、天の白い絹で覆い尽くします。雪を見たことがなかった私は、初雪が降った時、その純白の大地に転がって寒さをつま先まで感じながら、「雪はどうして、こんなに美しいのだろうか」と何度も思いました。

春には、大学で一緒に学ぶ友人たちと、桜の名所として知られる弘前公園でお花見をしました。満開の桜を眺めながら、この世にこんなに美しいものが存在するのなら生きていける、頑張っていける、日本に来て本当によかった！と心から思いました。

新緑の初夏には、早朝の新鮮な空気を吸って、また新しい幸せな気分になりました。夏はねぶた祭りの季節です。私も太鼓を打ちながら、「ラッセラー、ラッセラー、ラッセラッセラッセラー」のかけ声で、数百人の人々と力を合わせている喜びを感じました。季節ごとの楽しみのある暮らしの良さを、あらためて感じました。

青森では、大きくて果汁たっぷりの林檎「世界一」を堪能することができます。香りとふっくら感が自慢のお米「つがるロマン」も毎日味わえるし、おいしいほたても楽しめます。全ては、ここの恵まれた美しい自然と、地元の人々の苦勞の賜物なのだと、しみじみと感じています。

青森に来てから、早くも1年が経とうとしています。喜びも悲しみも一杯詰まった1年間です。青森中央学院大学では、専門の知識を学ぶだけでなく、ねぶた囃子方部などのサークルや様々なボランティア活動を通じて、数え切れないほどの貴重な体験をしたり、素晴らしい思い出を作ったりすることができます。ここでの毎日は、明るく希望に満ちています。それは先生方の心に残る深い教えや、職員の皆さんの優しい笑顔のおかげです。そして、様々な国からの留学生たちと一緒に勉強したり、料理をしたりして過ごす楽しい時間も、私を支えてくれています。

「愛あれ 知恵あれ 真実あれ 雪解の山にさきがけて咲く辛夷の花の白妙かざし 学びにつどう人よ人よ 行く道永遠にあかるく清しく」という校歌の歌詞は、いつも私の胸にしっかりと刻まれています。この大学で、明るい未来への第一歩を踏み出すことができました。青森中央学院大学に来ることができて、皆に会えて本当によかったと、心から思っています。

青森時間

青森中央学院大学大学院 地域マネジメント研究科1年

李 宜芳（台湾）



外国人にとって、日本の都市といえば、やっぱり歴史や由緒のある京都とか奈良、あるいは大都市としての東京それに大阪などの名前が真っ先に浮かぶでしょう。私も例外ではなかったようです。こういう意識の中、台湾の先生から青森中央学院大学の大学院受験を薦められました。青森といえば、世界的に有名なリンゴの産地であることは知っていました。友人たちも私が青森というと、異口同音に「リンゴ」としか言いませんでした。そういう意味では、青森は私にとって全く未知の外国の都市でした。

とはいえ、大きな夢を抱いて到着した青森に私はびっくりしてしまいました。まず初めに驚いたのは、地下鉄がなかったということでした。ショックでした。そして、バス停に行ってもビックリしたことは、バスの本数が少ないことでした。昼間、青森駅まで行こうとしても、バスは一時間に一本しかありません。したがって、私の交通手段は自転車と自分の足に頼るしかないという生活になりました。どこに行くにしても、時間が大変にかかることに閉口しました。しかし私は青森には青森の時間があると考えようになりました。つまり、青森の時間がゆっくり流れているということです。

ところで入学式から間もない頃の思い出を述べようと思います。

青森に来たのは今年の四月でした。そして間もなく桜の見頃を迎えました。偶然のことでしたが、太宰治の卒業した高校が現在の青森高校であることを知って、お花見に行ってきました。そこは桜の名所ではなかったから、人が少なく、ゆっくり桜の観賞ができました。人が少なかった分だけ桜が一杯あるように感じ、その美しさに胸を打たれました。はち切れそうに盛り上がって綺麗な桜の木の花の枝を見ると、ふと立ち止る私でした。春の寒さがいくらか残っている心地よい風が音もなく流れました。小学生みたいな女の子がふたり、自転車に乗って遊んでいました。その子たちのおばあさんはその近くにある石を椅子にして、花を見ながら孫たちを見守っていました。やすらぎの風景でした。その情景のなかで私も桜を見ながら、幸せを感じていました。

夏になると、青森のあちこちでイベントが開催されました。私は青森に馴染むために、参加できる限りのイベントに参加しました。最初に出掛けたのは浅虫の花火大会でした。友達と一緒に、揃いの浴衣を着て電車に乗って浅虫へ行きました。浅虫の夜空は真っ黒でした。その真っ黒な夜空を背景にして上げる花火は、一瞬の彩りを添えるドラマの演出でした。テレビで見る花火とは違って、現場で見る本物の花火にはより一層感動するものがありました。その感動は言葉では表現できないくらい嬉しい気持ちにさせてくれました。その翌日は、青森のねぶたの登場でした。ねぶた本体はとても迫力があって綺麗でした。跳人、囃子、太鼓の行列も最高でした。この勇壮華麗なねぶた祭り、さすが日本三大火祭りとして全国的に有名な祭りだと思いました。いい雰囲気が青森の町のあちこちに漂っていて、すごく楽しい思い出となりました。

短い4か月間でしたが、私は青森のめりはりを体験しました。これから青森の秋と冬も楽しみにしています。青森の生活を皆さんと共に大きいに満喫したいと考えています。

私が感じた日本の怖さと温かさ

青森大学経営学部経営学科3年

黄淑萍(中華人民共和国)



青森大学経営学部の三年生、黄淑萍と申します。初めて日本の土を踏んだのはおととしの秋、2008年の9月23日です。その日のことは、今でもはっきりと思い出せます。

朝六時に青森駅に到着して、私は一人で青森大学行きのバスを待っていました。知らない土地で、最初に目に入ってきたのは、思いもよらない光景でした。けたたましい鳴き声がするので、空を見上げてみると、カラスが空を真黒に染めていました。私は中国で一度もカラスを見たことがありませんでした。中国ではカラスを見ると、不幸なことがあると思われていて、昔の人はカラスを見ると矢で殺してしまうこともありました。日本はカラスだらけで、本当に恐ろしいところだと思いました。

青森駅で、たくさんの荷物を持ち、不安な気持ちで、バスを待っていると、幸い、入学試験の時に北京で一度あったことのある青森大学の奈良先生と会いました。とても偶然な出来事でした。私はすぐ先生に声をかけ、挨拶をしました。すると、先生はとても親切に、荷物を運ぶのを手伝ってくださり、私を学校まで連れて行ってくださいました。その時、日本人の心の温かさに初めて触れました。カラスにおびえている私を一瞬で不幸から幸運へと導いてくれた先生の優しさに感動しました。

青森に来て2年目の今年、私はねぶた祭のアルバイトをしました。観客席の椅子を片付けたり、お客さんを案内したりする仕事です。その時私は大きな失敗をしました。お客さんの席を間違えて案内してしまったのです。私はお客さんや責任者の人に厳しく叱られると思いました。私は何度も謝りました。すると、お客さんも責任者の人も何も言わずに、にっこりと笑って許してくれました。私は二人の優しい笑顔を見て、ほっとしました。このように、私は日本に来て、不安で辛い時に日本人の皆さんの笑顔に励まされてきました。

しかし、そんな優しい人がたくさんいる日本で、毎日悲しい事件がおきています。驚くことに、日本の学校では、いじめが原因で、自殺する子供がいます。子供に暴力をふるったり、育児放棄をして、子供を殺してしまう親もいます。そして、老人が一人で死んでもだれも気がつかないという孤独死も深刻な問題です。どうしてこんな恐ろしい事件が起きているのか本当に不思議です。優しい心を持った日本人なら、家族や親子の繋がりを大切にできるのではないのでしょうか。

日本人には日本人特有の優しさや温かさがあります。みんなの優しさを持ち寄れば、日本の社会問題もなくなり、世界中の人を幸せにできると思います。私は中国に帰ったら、多くの日本人からいただいた温かい笑顔を中国社会に広げたいです。また、私が日本にいた間に、中国人が今も一番大切にしている家族の絆、親子の絆を伝えたいです。そして、日本人が忙しさの中で忘れかけている家族に対する優しさをもう一度思い出してくれることを願っています。

私の留学生活

青森大学社会学部福祉学科3年

宋 钰(中華人民共和国)



2008年北京オリンピックが終わったあと、北京空港から飛行機で日本に来たとき全てが新鮮に感じられました。仙台空港に迎えに来た青森大学のバスに乗って、午後3時から夜8時までの5時間のバス旅行を楽しみました。窓から見た日本に対するイメージは環境が良く空気も新鮮なところだというものでした。学校では、先輩たちからいろいろな生活手段を教えてもらいました。例えば、激安のスーパーを教えてもらったり、ゴミの出し方を教えてもらったりしました。青森大学には中国の留学生がたくさんいますので、私の留学生活は日本にいるにも関わらず、中国語に囲まれて始まりました。

留学して初めての冬休みに東京へ行きました。東京で電車に乗ろうとして、切符売り場に向かったとき、流れる水のように絶え間なく続いて歩いている人たちが携帯電話を切符のように使って、改札口に入って行きました。それを見て「切符を買わなくてもいいんだ」と思い、みんながやったとおり私も携帯で入ろうとしました。ですが、なぜか入れませんでした。焦った私のところに駅員が飛んできました。駅員と話したとき私の日本語に間違いがあったようで、駅員は私が外国人だということが分かりました。駅員はニヤッと笑って、私を切符売り場に連れて行き親切に教えてくれました。北京では携帯電話を使った乗車方法は無いので、一番最初のカルチャーショックでした。

実は最近ちょっとした事件がありました。9月下旬ごろからしきりに中国から電話が来ています。話の内容は大体同じで「ちゃんと勉強して安全にも注意しなさい、最近の中日関係はぎすぎすしているので危険なことはしないでください、日本ではデモ行進をしたのか、日本人は中国人にどうなのか、最近影響を受けたことは無かったのか、本当のところは大丈夫なのか、ダメなら中国に戻れ。」などです。それに対する私の答えは皆同じで「ここは何も影響はない、安心して大丈夫」です。9月22日は旧暦の8月15日で中国の中秋節でした。この日は家族と一緒に過ごす大切な日です。私は中国の両親に電話をしました。両親も同じようにひどく心配していました。ですが、私は大丈夫だと伝えました。

八戸工業大学 博士後期課程土木工学専攻 1 年
阿里甫江（中国）「はじめまして」



中国新疆のアクス（Aksu）から来ましたアリブジャン・シャムシです。ウイグル（Uyghur）族で 34 歳、中国新疆大学の教師をしています。2010 年 3 月新疆大学から日本の八戸工業大学に派遣されて博士課程で勉強しています。

私は 1993 年中国南京河海大学に合格し、新疆ウルムチ（Urumqi）市で 2 年間中国語を勉強した後、1995 年に南京河海大学に行き、2002 年 4 月工学修士の学位を取得して、2002 年 7 月新疆ウルムチに帰り、新疆大学で教師をしています。

私の家はウルムチ市にありますが、故郷はアクス地区のカルピン（Kalpin）県です。カルピン県の人口は 4 万人位で、街の規模は小さく、主にウイグル族が住んでいます。カルピンの水資源は豊富とは言えず、自然条件には恵まれていません。カルピンのウイグル族は他の地方のウイグル族と比べ風俗習慣や方言が独特で、時には異なる村で少しの方言の違いが見られます。カルピン県の人々は客好きで、伝統が好きです。もし家にお客さんが来ると、余裕のある家庭では必ず羊を一頭屠ってお客さんに敬意を示し、またどんな条件の家庭であってもお客さんに一晩泊まってもらい、そうして初めて家の主は自分の責任を果たしたと自覚でき、満足するのです。何はともあれ、お客さんに満足してもらうことが肝心なのです。またある家庭にお客があると、近所の人たちは順番にお客を招待し宴会を開かなくてはなりません。もし村に何か大きな出来事が起きると、例えばある家で大きな災いなどがあると、村人は集まって解決方法を相談し、家々に援助を求めます。村では集団での行事が割合多く、例えば、婚礼などは大抵多くの人々が集まって一緒に歌いながら踊って楽しめます。

ウイグル族はイスラム教を信仰しており、一般にどのウイグル族の男性も皆毎週金曜日にモスクへ礼拝に行くよう求められており、男性も女性も祈ることができ、一日五回祈りを捧げる事が推奨されています。

ウイグル族は豚肉を食べませんし、反芻しない如何なる哺乳類と大部分の鶏肉を食べません。比較的好まれる肉類は羊で、ウイグル族のシンガバブは世界的に有名です。ウイグル族の主食は小麦で、家庭ではポロ（ピラフ）、ラグメン（トマト風味餡かけうどん）、水ギョーザ、薄皮肉まん等、野菜はにんじん、玉葱、白菜、青唐辛子、トマト、青菜、ニラ等を食べます。ウイグル族は果物が好きで、新疆はメロンの里の異名があります。平均日照時間が長く、その後乾燥しているので、新疆のメロンは大変甘くて美味しいです。大部分のウイグル族が好きな果物はマクワ瓜で、新疆のマクワ瓜は大変美味しいです。新疆の各地にはそれぞれ独特の産品があり、例えばカシュガル（Kashgar）のイチジク、ザクロ、マクワ瓜、ホータン（Hotan）のザクロとクルミ、アクス（Aksu）のクルミとリンゴ、コルラ（Korla）の梨、トルファン（Tufan）のブドウ、ハミ（Hamu）のマクワ瓜と赤ナツメ、イリ（Ili）のリンゴなどは皆代表的な果物です。

日本は世界の先進的な科学技術を持ち、その建築構造設計技術は最も発達しています。日本は地震多発国なので、耐震構造設計の分野ではその設計技術は全世界の最先端の地位にあります。中国新疆も地震多発地域に属し、建築構造設計者として、私は日本の進んだ建築構造耐震設計技術を学び、故郷の建築構造事業に貢献できればと思っています。

2010 年 3 月 9 日八戸市に着き、これからここに住む 3 年間に私が学ばなければならないことは日本の先進的な科学技術だけでなく、日本語や日本文化、その他多くのことです。

日本に来てから先生方やその他の日本の方の親切なご援助のお陰で早くも日本の生活に慣れ、温かく調和の取れた環境の中で日本の生活を楽しんでいます。

弘前大学・農学生命科学部・園芸学科 2 年生

ワムブラウ ダニエル ザドラク
「与えられた美しい第二のふるさと」



この街に来た時のことを思い出したら、大変でした。わからないことばかりでした。弘前大学さえどこにあるかわかりませんでした。正直、探すのは大変でした。

しかし、時間の流れに連れ、この街のことについてだんだんわかるようになり、この街のことも少しいずつ慣れました。

知らないが好きということができない。母国ではこういう諺があります。まさに、その通りでしょね。知れば知るほど、やはりこの街が好きです。タイトルどおり、今この街は自分にとって第二のふるさとです。

この街は色々あります。この時期になると街にはリンゴが多く、ちょっとだけ山とか離れているところのほうに行くと赤い実のリンゴが木の上に多くいます。その、うしろに紅葉があり、非常に美しいです。

フジというリンゴの品種が母が好きで、よく食べます。フジという名で富士山の近くに生まれるではないか、日本に来る前にそう思いました。でも、大学で勉強した後に、フジという品種がこの県(藤崎町)で生まれるということがわかるようになりました。素晴らしいです。そんなおいしいリンゴが世界中で食べられるようになったのはこの県の人々のおかげです。

この街は春になると、桜がきれいで、その美しさを眺めるために日本人に限らず、外国の方々も来ますので、素晴らしいです。また夏、ねぶた祭りにも同じく、にぎやかで、楽しいです。なぜなら、この街が急に人が多くみえるからです。秋になると、もちろんリンゴ、弘前城に秋祭り、紅葉がきれいです。冬には冬祭りもあります。寒いけど楽しいです。楽しめることが季節ごとにあるから、素晴らしいです。

また、色々なイベントに参加させていただいて、良かったです。少しいでも地元のみんなさんと交流ができ、自分の国の習慣や言葉、あるいは文化を話しことができ、良かったです。

これからもう、卒業するまでこの街にいたので色々なことを知りたいです。三年後、この街にはどんな変化がするのか、楽しみです。

北里大学大学院獣医畜産学研究科

博士課程獣医学専攻 4 年

Doungjit Kanungpean



“クワム・ソン・チャム・ティディ” good memory

私は Doungjit Kanungpean です。タイ・バンコクにある Mahanakorn University of Technology, College of Veterinary Medicine の獣医公衆衛生学研究室の講師です。現在、北里大学大学院獣医学研究科博士課程 4 年生です。獣医衛生学研究室でヒトに食中毒を引き起こす *Campylobacter jejuni* の発病機序について研究しています。

日本はたいへん美しい国で、また、食べ物も美味しく、毎日の生活を楽しんでいます。Molecular bacteriology に関する研究は難しいけれども新しい発見があり、大変幸せです。

研究室の学生と一緒に楽しむ機会に恵まれ、ホームシックにならないで 4 年間が終わります。特に、十和田湖の美しさ、北海道の雪祭り、青森ねぶた、秋田大館の花火、色々な所に、研究室の学生と一緒に行きました。私は、研究室の皆さんにたいへん感謝しています。北里大学で学ぶことが出来て、多くのクワム・ソン・チャム・ティディ good memory ” ができました。

トピックス

「十和田湖湖水まつり2010」参加 （青森中央学院大学）

青森中央学院大学と十和田市は2008年2月、包括的な連携のもと産業、教育、文化、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に連携協定を締結しました。その一環で十和田市ならびに社団法人十和田湖国立公園協会と連携して「十和田湖湖水まつり」に初めて参加しました。

7月17日（土）・18日（日）の二日間、十和田湖畔休屋でイベント主体型祭りとして開催され、留学生は「アジア屋台」で手作りの台湾タピオカミルクティー、ベトナム揚げ春巻、マレーシアプリン、中国お茶たまごを提供することと「世界民族衣装ファッションショー」で中国、マレーシア、ベトナム、タイの民族衣装を披露することを担当しました。

また、本学園の青森中央文化専門学校も別の「ファッションショー」を行いました。留学生も専門学校生が作製した衣装を着て、専門学校生とともにモデルを務めました。



平成22年度留学生交流行事一覧
(青森大学)

開催	交流行事名	主催(参加)	交流内容
4月	春新入生オリエンテーション・ガイダンス	青森大学	新入生の生活と学習の指導・授業の取り方の指導
	在学留学生のガイダンス	青森大学	授業の取り方の指導
	全体留学生指導集会	青森大学	留学生生活の説明と指導
5月	お花見	青森大学	弘前公園でお花見
	全体留学生指導集会	青森大学	留学生生活の説明と指導
6月	全体留学生指導集会	青森大学	留学生生活の説明と指導
	第22回アメリカン・デー	三沢国際クラブ	アメリカの文化や料理を体験
	ごはんですよ	日本語学習支援 青い森	留学生・高齢者・地域住民による「食育・食文化の伝承」
7月	全体留学生指導集会	青森大学	留学生生活の説明と指導
	ランチ教室	みんなの応援隊ネットワーク	内モンゴル文化と料理の紹介
	ごはんですよ	日本語学習支援 青い森	留学生・高齢者・地域住民による「食育・食文化の伝承」
8月	青森ねぶた祭り	青森ねぶた祭り実行委員会(参加:青森大学)	代表的な夏祭りへ留学生が参加
9月	学位記授与式	青森大学	9月卒業の留学生の学位記授与式
	在学留学生のガイダンス	青森大学	授業の取り方の指導
10月	全体留学生指導集会	青森大学	留学生生活の説明と指導
	第一回目地域文化交流会	青森大学	青森市清掃工場見学と青森市の歴史に触れる
	第十回留学生日本語弁論青森県大会	世界平和女性連合青森県連合会	青森県にいる留学生の日本語弁論大会
	ごはんですよ	日本語学習支援 青い森	留学生・高齢者・地域住民による「食育・食文化の伝承」
11月	第二回目地域文化交流会	青森大学	青森観光リング園見学と三内丸山遺跡見学
	ごはんですよ	日本語学習支援 青い森	留学生・高齢者・地域住民による「食育・食文化の伝承」
	第15回外国人日本語スピーチコンテスト	国際交流ボランティア協会	外国人日本語スピーチコンテスト
12月	全体留学生指導集会	青森大学	留学生生活の説明と指導
	ごはんですよ	日本語学習支援 青い森	留学生・高齢者・地域住民による「食育・食文化の伝承」
	ミニ万博	国際文化交流クラブ	各国の文化や料理の紹介
	フレンドシップ交流会と日本文化体験	青森大学	日本文化及び本学の部活・サークル体験
23年1月	全体留学生指導集会	青森大学	留学生生活の説明と指導
	ごはんですよ	日本語学習支援 青い森	留学生・高齢者・地域住民による「食育・食文化の伝承」
	第三回地域文化交流会 文化を紹介して、交流を深めよう	青森大学	市内の小学校に出向き中国文化を紹介する
2月	全体留学生指導集会	青森大学	留学生生活の説明と指導
	ごはんですよ	日本語学習支援 青い森	留学生・高齢者・地域住民による「食育・食文化の伝承」
3月	学位記授与式・卒業謝恩パーティー	青森大学	3月卒業の留学生の学位記授与式・卒業謝恩パーティー

**平成22年度留学生交流行事一覧
(青森中央学院大学)**

実施	交流行事名	主催(参加)	交流内容
4月	春季新入留学生対象新入生特別ガイダンス	青森中央学院大学国際交流センター	留学生活の説明と指導
	香港・保良局陳守仁小学修学旅行受入	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加: 青森中央学院大学)	香港との交流促進及び通訳として参加
	外国料理体験教室	青森中央学院大学FSAサークル	留学生と日本人学生と地域住民の共同料理体験と交流
	楽しくおいしいランチ	NPO法人国際ボランティアセンター青森 (参加: 青森中央学院大学)	留学生と地域との交流
	2010年春 宝探しゲーム	青森中央学院大学FSAサークル	新入留学生と在校生・日本人学生とのコミュニケーション作り
	タイ国立カセサート大学附属高校修学旅行受入	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加: 青森中央学院大学)	タイとの交流促進及び通訳として参加
	学生会館合同歓迎会	青森中央学院大学学生会館自治会	新入寮生の歓迎と交流促進
	タイ王立チュラロンコン大学看護学部受入	青森中央学院大学・青森中央短期大学看護学科	タイとの交流促進及び意見交換
	ベトナム国立貿易大学学長団公式招待	青森中央学院大学	ベトナムとの交流促進及び共同教育プログラムの調印
5月	弘前公園観桜会	青森中央学院大学国際交流センター	お花見をとおして、新入生歓迎と日本人学生との交流促進
	タイ・泰日工業大学(日本語初級)サマーキャンプ受入	青森中央学院大学国際交流センター	短期日本語研修と青森の文化体験等
	タイ・泰日工業大学(日本語上級)サマーキャンプ受入	青森中央学院大学国際交流センター	短期日本語研修と青森の農家体験・文化体験
	合浦公園花見&バーベキュー大会	青森中央学院大学FSAサークル	留学生と日本人学生の交流
	AOMORI春フェスティバル・青森中央文化専門学校ファッションショー	AOMORI春フェスティバル実行委員会 (参加: 青森中央学院大学)	学内交流。ファッションショーのモデルとして参加
	春季新入生歓迎会(FSA)	青森中央学院大学FSAサークル	留学生、教職員、地域住民参加型の新入生歓迎パーティー
	留学生による中国語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	留学生が講師となり、地域住民との交流
	中国語教室	五所川原市中央公民館・みんなの教室 (参加: 青森中央学院大学)	中国人留学生在が講師として中国語を紹介
6月	青森南高等学校外国語科との植林ボランティア活動	青森南高校外国語科 (参加: 青森中央学院大学)	留学生と南高校外国語科生徒との植林活動
	ごはんですよ～	日本語学習支援「青い森」 (参加: 青森中央学院大学)	留学生と地域住民との料理交流
	楽しくおいしいランチ	NPO法人国際ボランティアセンター青森 (参加: 青森中央学院大学)	留学生と地域との交流
	留学生によるベトナム語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	留学生が講師となり、地域住民との交流
	留学生対象就職ガイダンス	青森中央学院大学キャリア支援委員会	留学生への就職指導
	東京・新宿日本語学校受入	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加: 青森中央学院大学)	東京の留学生へグリーン・ツーリズム誘致活動
	白神山地見学会	青森中央学院大学異文化交流会サークル	青森の自然(世界遺産)を理解する
	在住外国人のための災害マップ政策事業のための体験事業	NPO法人国際ボランティアセンター青森 (参加: 青森中央学院大学)	地震体験を通じて、災害時どのように行動するかを学ぶ
	バーベキュー大会	NPO法人国際ボランティアセンター青森 (参加: 青森中央学院大学)	留学生と地域との交流
7月	青森県基本計画「学生発未来への挑戦」	青森県企画政策部企画調整課 (参加: 青森中央学院大学)	青森の未来について、考え、行動し、発信する。
	台湾・修平技術学院修学旅行受入	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加: 青森中央学院大学)	台湾との交流促進及び通訳として参加
	留学生全体ガイダンス	青森中央学院大学国際交流センター	夏期休暇前の説明と指導。入管法改正の説明。
	十和田湖湖水まつり	十和田湖湖水まつり実行委員会 (参加: 青森中央学院大学)	アジアン屋台・民族衣装ファッションショーで地域に協力
	大学院進学相談会	青森中央学院大学大学院研究科委員会	留学生への大学院進学指導
	青森北高等学校チャレンジ異文化理解講座	青森北高校PTA (参加: 青森中央学院大学)	留学生が講師となり、高校生・保護者・地域住民と交流

**平成22年度留学生交流行事一覧
(青森中央学院大学)**

実施	交流行事名	主催(参加)	交流内容
8月	2010ジュニアグローバルトレーニングスクールin Aomori	NPO法人ジュニアグローバルトレーニングスクール (参加: 青森中央学院大学)	青森・アメリカ・韓国の小学生対象の国際交流サマースクールに通訳・運営ボランティアとして参加
	台湾・僑光科技大学修学旅行受入	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加: 青森中央学院大学)	台湾との交流促進及び通訳として参加
	農村漁村異文化交流を通じてのリーダー研修拡大事業	NPO法人国際ボランティアセンター青森 (参加: 青森中央学院大学)	小学生や地域との交流
	青森ねぶた祭り	青森ねぶた祭り実行委員会 (参加: 青森中央学院大学)	代表的な夏祭りへ留学生が参加し、青森の理解を深める
	つがる市縄文遺跡見学とすいか・メロン交流会	青森中央学院大学異文化交流会サークル	青森の歴史と特産物を知り、異文化を学ぶ
	青森テレビ「おしゃべりハウス」出演	青森テレビ (参加: 青森中央学院大学)	ベトナムの紹介
	しんまちふれあい広場	しんまちふれあい広場実行委員会 (参加: 青森中央学院大学)	イベントで母国紹介等
9月	秋季学位記授与式・卒業祝賀会	青森中央学院大学	9月卒業の留学生の授与式・祝賀会
	青森放送「江奈磁家の食卓」出演	青森放送 (参加: 青森中央学院大学)	マレーシアの紹介等
	翔麗祭(学園祭)	青森中央学院大学学生会	教職員・学生と地域の交流。留学生による母国の模擬店出店等。
	第8回日本語スピーチコンテスト	青森中央学院大学国際交流センター	留学生参加のスピーチコンテスト
	青森テレビ「おしゃべりハウス」出演	青森テレビ (参加: 青森中央学院大学)	中国、韓国、ベトナム、マレーシアのお月見の紹介
	台湾・中鋼公司農家民泊受入事業	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加: 青森中央学院大学)	台湾との交流促進及び通訳として参加
10月	秋季新入留学生対象新入生特別ガイダンス	青森中央学院大学国際交流センター	留学生活の説明と指導
	青森サポーター事業 林業フォーラムと林業者との交流会	青森中央学院大学・あおもりくらしの総合研究所	青森サポーター事業の一環として、青森の林業を学び、交流する
	留学生によるタイ語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	留学生が講師となり、地域住民との交流
	祭りの祭り	青森中央学院大学FSAサークル	外国の祭りを紹介し、国際交流をする
	青森サポーター事業 りんご収穫体験研修とりんご生産者との交流会	青森中央学院大学・あおもりくらしの総合研究所	青森サポーター事業の一環として、青森の農業を学び、交流する
	台湾・台中福瑞社区発展協会旅行受入	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加: 青森中央学院大学)	台湾との交流促進及び通訳として参加
	タイ・チュラロンコン大学看護学部との懇談会	青森中央学院大学国際交流センター	タイの留学生を交えての交流
	中国・上海大学国際交流学院との懇談会	青森中央学院大学国際交流センター	上海出身留学生および上海大学に留学した日本人学生を交えての交流
11月	青森サポーター事業 奥入瀬溪流散策とながいものすいとん作り体験研修	青森中央学院大学・あおもりくらしの総合研究所	秋季新入生と自然に触れながら交流するとともに青森サポーター事業の一環として、県産食材を使った料理を学ぶ留学生が講師となり、地域住民との交流
	留学生によるマレー語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	
	ポットラックパーティー	青森中央学院大学FSAサークル	留学生と日本人学生との交流
	平川市立碓ヶ関小学校インターナショナルタイム	碓ヶ関小学校	
	国際理解セミナー	青森西高校人文科 (参加: 青森中央学院大学)	英語で母国の紹介
	第15回外国人日本語スピーチコンテスト	青森市国際交流ボランティア協会(AIVA) (参加: 青森中央学院大学)	スピーチコンテストへの参加
	秋季新入生歓迎会	青森中央学院大学FSAサークル	留学生、教職員、地域住民・交流団体参加型のパーティー
12月	国際交流会館・学術交流会館合同スポーツ大会	青森中央学院大学学生会自治会	寮生同士の交流大会(日本人寮生と留学生寮生の交流)
	あそびSESSION	青森県留学生交流推進協議会 (参加: 青森中央学院大学)	
	留学生による韓国語講座	青森中央学院大学地域社会活動委員会	留学生が講師となり、地域住民との交流
	国際交流クリスマスパーティー	青森中央学院大学FSAサークル	留学生、教職員、地域住民参加型のクリスマスパーティー
1月	青森県基本計画「学生発未来への挑戦」	青森県企画政策部企画調整課 (参加: 青森中央学院大学)	研究発表
	青森サポーター事業修了式・国際語学サポートセンター活動報告会・合同懇親会	青森中央学院大学・あおもりくらしの総合研究所	青森サポーター事業に参加した留学生への認定証交付など。

平成22年度留学生交流行事一覧
(青森中央学院大学)

実施	交流行事名	主催(参加)	交流内容
2月	台湾・高雄市立陽明国民中学修学旅行生受入	アジアからの観光客誘致推進協議会 (参加：青森中央学院大学)	台湾との交流促進及び通訳として参加
3月	国際交流会館・学術交流会館合同お別れ会	青森中央学院大学学生会館自治会	退寮予定者の送別会
	学位記授与式・卒業祝賀会	青森中央学院大学	3月卒業の留学生の授与式・祝賀会

平成22年度留学生交流行事一覧
(青森公立大学)

実施	交流行事名	主催(参加)	交流内容
開催	交流行事名	主催(参加)	交流内容
6月	POTLUCK PARTY	青森公立大学国際交流サークル	日本人学生と留学生の交流パーティーの開催
10月	POTLUCK PARTY	青森公立大学国際交流サークル	日本人学生と留学生の交流パーティーの開催
12月	POTLUCK PARTY	青森公立大学国際交流サークル	日本人学生と留学生の交流パーティーの開催

平成22年度留学生交流行事一覧
(弘前立大学)

実施	交流行事名	主催(参加)	交流内容
4月	新入学留学生のためのガイダンス	弘前大学	学内外留生活の説明、指導
	新規留学生ウェルカムパーティー	弘前大学	教職員・留学生等による歓迎会
	弘前ねぶた祭	弘前ねぶた祭実行委員会 (参加：弘前大学)	代表的夏祭への留学生参加／見物
	国際交流夏祭り	弘前市桔梗野町会 (参加：弘前大学)	弘前大学留学生と地域住民との交流
8月	外国人留学生研修修了証書授与式	弘前大学	9月修了留学生の授与式
	青森県留学生交流ジャンボリー	青森県留学生交流推進協議会 財団法人青森県国際交流協会 (参加：弘前大学)	留学生相互及び日本人学生並びに国際交流関係者との交流促進と青森県内の文化等を紹介
10月	新規留学生ウェルカムパーティー	弘前大学	教職員・留学生等による歓迎会
	弘前大学総合文化祭	弘前大学	教職員・弘前市民との交流
2月	国際交流・餅つきフェスティバル	弘前市桔梗野町会 (参加：弘前大学)	弘前大学留学生と地域住民との交流
2月	外国人留学生卒業・修了懇談会	弘前大学	国際交流関係者等による送別会
	外国人留学生研修修了証書授与式	弘前大学	3月修了留学生の授与式

平成22年度留学生交流行事一覧
(八戸工業大学)

実施	交流行事名	主催(参加)	交流内容
開催	交流行事名	主催(参加)	交流内容
5月	新入生オリエンテーション (1泊2日)	八戸工業大学	在籍学科の新入生・教職員と留学生との交流
5月	体育祭	八戸工業大学	在学生との交流
10月	学園祭	八戸工業大学	教職員・在学生・八戸市民との交流
2月	学術交流協定大学院生の成果報告会	八戸工業大学	教職員と留学生による成果報告会
3月	学位記授与式・祝賀会	八戸工業大学	留学生の学位記授与式・祝賀会

留学生関係資料

青森県内高等教育機関における外国人留学生在籍状況

1 国費・私費別外国人留学生数（8機関）

（平成22年5月1日現在）

機 関 名 経費区分	弘前大学	青森大学	八戸工業大学	北里大学獣医学部	八戸工業高等専門学校	青森公立大学	青森中央学院大学	青森短期大学	合 計
国 費	13	1			4				18
私 費									
外国政府派遣	6				4				10
青 森 県 費									
上 記 以 外	131	271	5	4		7	138	31	587
計	150	272	5	4	8	7	138	31	615

2 国別外国人留学生数（25か国）

（平成22年5月1日現在）

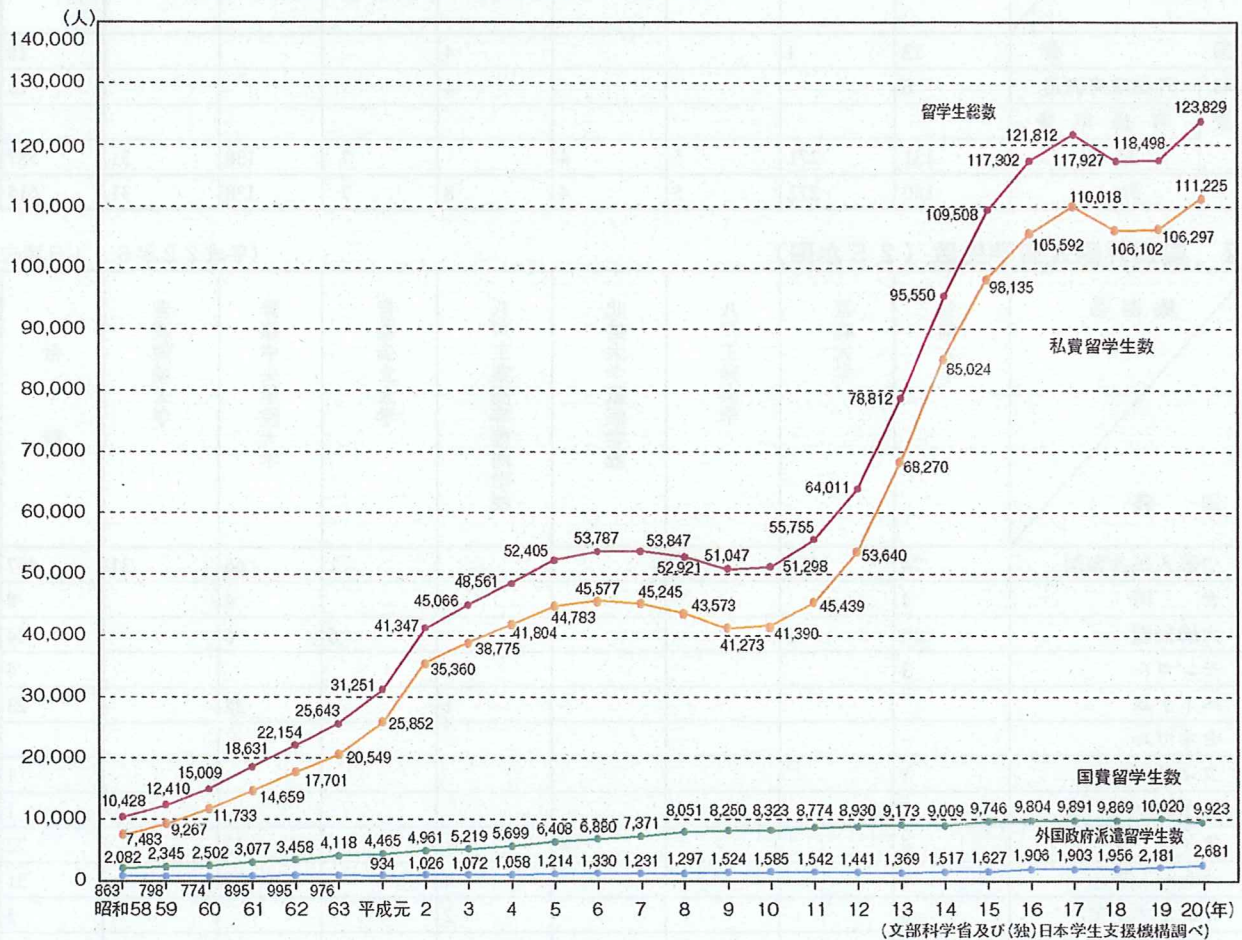
機 関 名 国 籍	弘前大学	青森大学	八戸工業大学	北里大学獣医学部	八戸工業高等専門学校	青森公立大学	青森中央学院大学	青森短期大学	合 計
中華人民共和国	74	270	5			1	66	31	447
台 湾	4						4		8
大韓民国	20	2				6	6		34
モンゴル	3				1				4
ベトナム					1		22		23
セネガル							1		
フィリピン	1								1
ミャンマー	1								1
タイ	6			4			12		22
マレーシア	4				4		27		35
インドネシア	3				2				5
バングラデシュ	2								2
アメリカ合衆国	5								5
カナダ	4								4
ニュージーランド	1								1
フランス	5								5
ドイツ	6								6
イタリア	1								1
ルーマニア	3								3
ハンガリー	1								1
チェコ	1								1
エジプト	1								1
ケニア	1								1
南アフリカ	1								1
チリ	2								2
計	150	272	5	4	8	7	138	31	61

我が国の大学等で学ぶ留学生は、平成20年5月1日現在123,829人で、平成19年に比べ5,331人(4.5%)増加した。これを出身地域別に見ると、我が国の地理的、文化的状況もあり、アジア地域からの留学生が全体の約9割を占めている。

また、我が国の日本語教育機関で学ぶ学生は、平成20年7月1日現在34,937人で、平成19年に比べ3,274人(10.3%)増加した。出身地域では、中国、韓国及び台湾からの学生が全体の約8割以上を占めている。

1 留学生数の推移

■大学・専門学校等の在籍者数(各年5月1日現在)



注) ここでいう大学・専門学校等の在籍者とは、我が国の大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程において教育を受ける外国人学生で、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により在留する者をいう。

■日本語教育機関の在籍者数(各年7月1日現在)



注) ここでいう日本語教育機関の在籍者とは、(財)日本語教育振興協会により審査・認定された日本語教育機関で学ぶ外国人学生をいう。

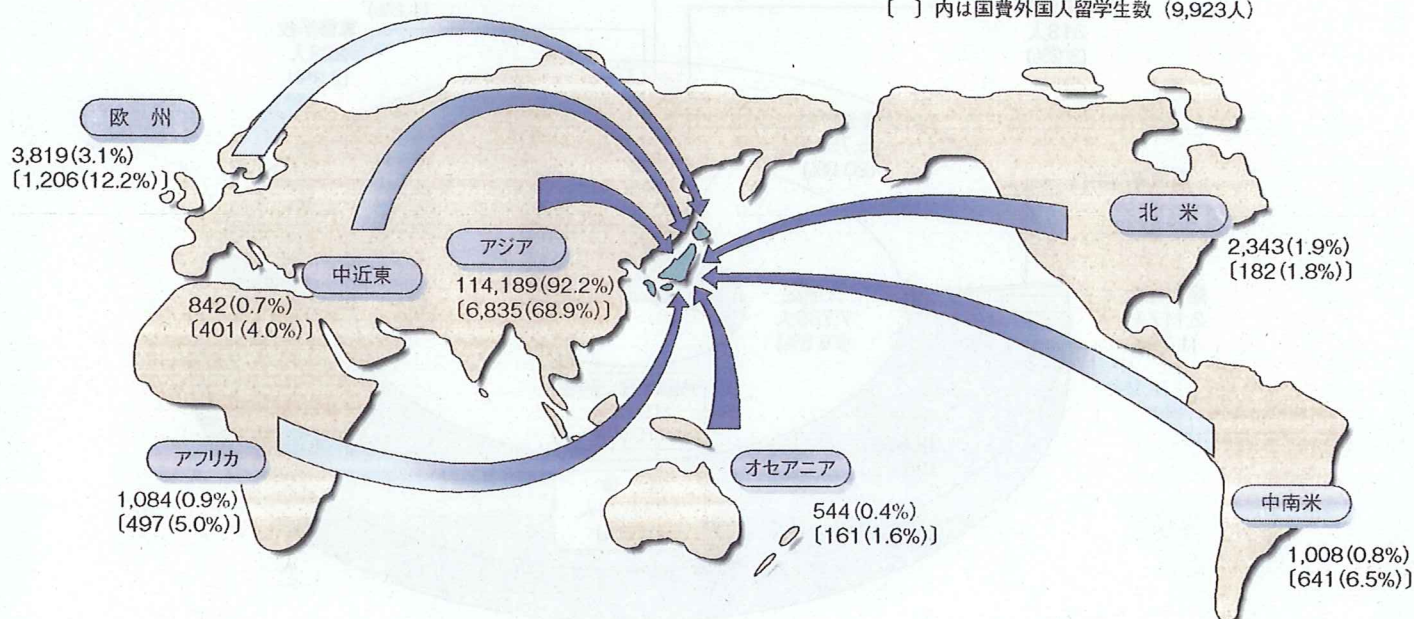
2 出身地域別留学生数

※大学・専門学校等の在籍者に限る

(平成20年5月1日現在)

総数：123,829人

[] 内は国費外国人留学生数 (9,923人)



3 出身国・地域別留学生数

※大学・専門学校等の在籍者に限る

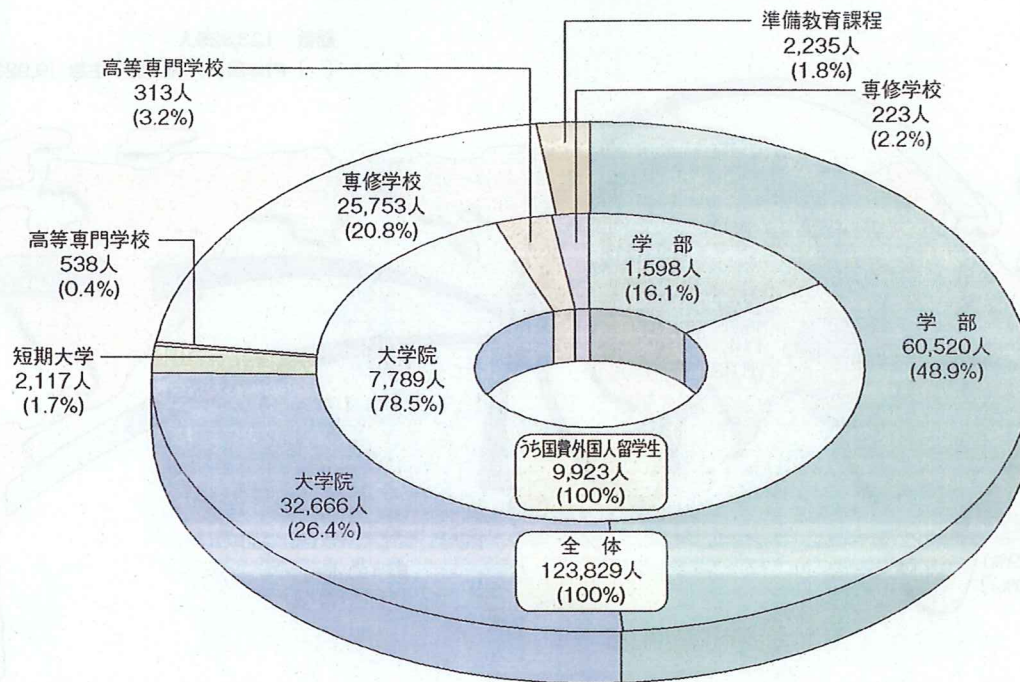
(平成20年5月1日現在)

国・地域名	留学生数 (人)		構成比	
中国	72,766	(1,794)	58.8%	(18.1%)
韓国	18,862	(930)	15.2%	(9.4%)
台湾	5,082	(0)	4.1%	(0.0%)
ベトナム	2,873	(574)	2.3%	(5.8%)
マレーシア	2,271	(238)	1.8%	(2.4%)
タイ	2,203	(564)	1.8%	(5.7%)
アメリカ合衆国	2,024	(127)	1.6%	(1.3%)
インドネシア	1,791	(690)	1.4%	(7.0%)
バングラデシュ	1,686	(466)	1.4%	(4.7%)
ネパール	1,476	(123)	1.2%	(1.2%)
その他	12,795	(4,417)	10.3%	(44.5%)
計	123,829	(9,923)	100.0%	(100.0%)

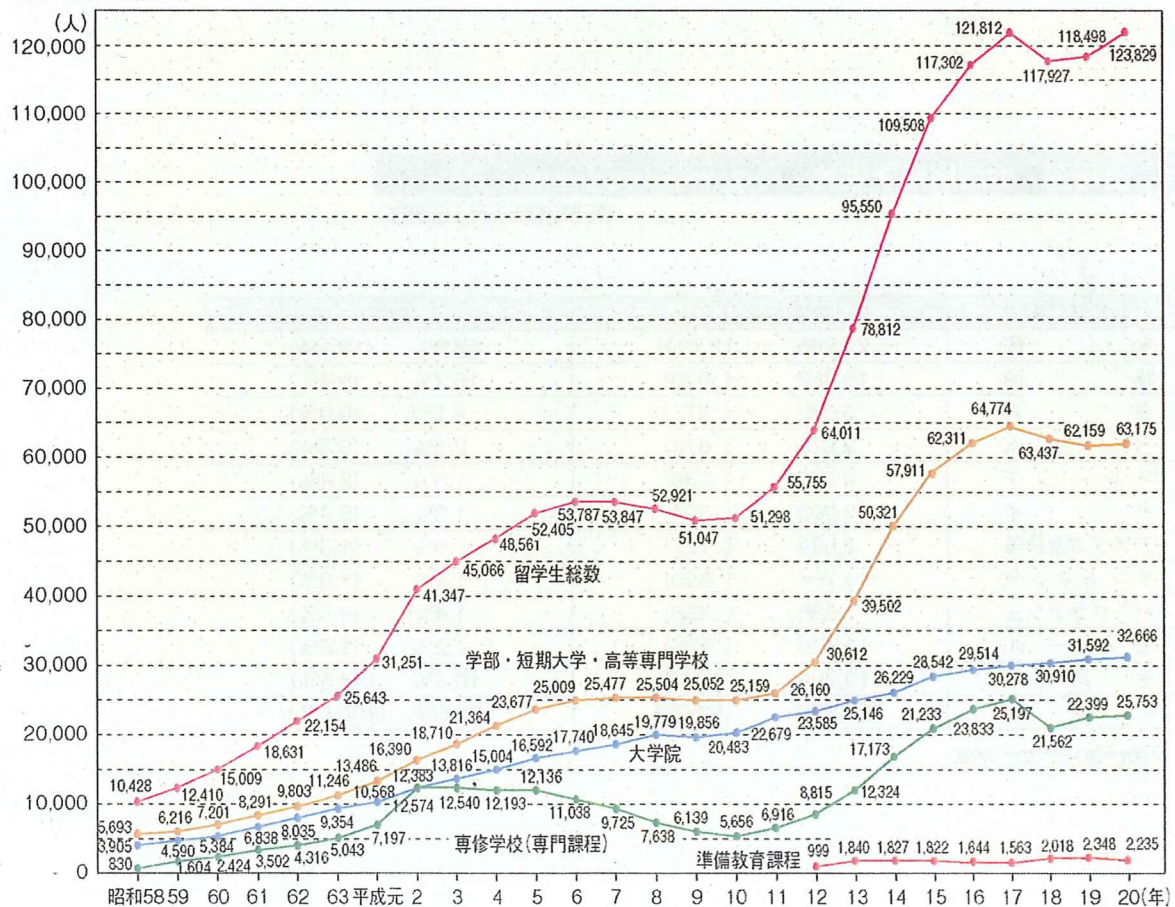
() は国費外国人留学生数で内数

4 在学段階別留学生数 ※大学・専門学校等の在籍者に限る

(平成20年5月1日現在)



(各年5月1日現在)



青森県留学生交流推進協議会要項

(目的)

第1条 青森県内における留学生の円滑な受入れを促進し、また、地域住民との交流を通じて相互の国際理解を深めるため、青森県留学生交流推進協議会（以下「推進協議会」という。）を置く。

(定義)

第2条 この要項において「留学生」とは、青森県内の高等教育機関又は学術研究機関において特定の研究を行い、又は教育を受ける目的で滞在する者をいう。

(事業)

第3条 推進協議会は、本会の目的を達成するため、主として次の事業を行う。

- (1) 留学生に関する情報交換
- (2) 留学生受入れに当たっての協力体制の充実（宿舍、奨学金、子女教育等）
- (3) 留学生と地域住民との交流の活性化
- (4) その他目的を達成するために必要な事項

(構成)

第4条 推進協議会は、県内に所在する次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 高等教育機関の長
- (2) 国及び地方公共団体等の長
- (3) 経済団体及び留学生交流関係団体の代表者
- (4) 学識経験者

(役員)

第5条 推進協議会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 監事 2名

2 会長は、推進協議会の議により互選するものとし、任期を2年とし、再任を妨げない。

3 副会長及び監事は、推進協議会の議により互選するものとし、任期を2年とし、再任を妨げない。

(役員職務)

第6条 会長は、推進協議会を招集し、その議長となる。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときは、会長の職務を代行する。

3 監事は、推進協議会運営費の監査に当たり、監事に関し必要な事項は、別に定める。

(構成員以外の出席)

第7条 会長が必要と認めたときは、構成員以外の者を会議に出席させることができる。

(運営委員会)

第8条 推進協議会の円滑な運営を図るため、青森県留学生交流推進協議会運営委員会

(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(賛助会員)

第9条 推進協議会の事業目的達成を支援するため、青森県留学生交流推進協議会賛助

会員（以下「賛助会員」という。）を置く。

2 賛助会員に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 推進協議会の事務は、会長所属機関において行う。

(雑則)

第11条 この要項に定めるもののほか、推進協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成2年1月26日から施行する。

附 則

この要項は、平成3年3月27日から施行する。

附 則

この要項は、平成11年1月21日から施行する。

附 則

この要項は、平成11年9月21日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成15年11月25日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

青森県留学生交流推進協議会申合せ事項

最終改正：平成20年11月18日

1 推進協議会の構成及び開催について

(1) 推進協議会の構成員は、次の団体等の長又は代表者とする。

一 高等教育機関	弘前大学、青森大学、東北女子大学、弘前学院大学、八戸大学、八戸工業大学、北里大学獣医学部、八戸工業高等専門学校、青森公立大学、青森明の星短期大学、青森中央学院大学、青森県立保健大学
二 国の機関	法務省仙台入国管理局青森出張所
三 地方公共団体	青森県、青森県教育委員会、青森市、弘前市、八戸市、十和田市
四 経済団体	(社)青森県経営者協会、青森県商工会議所連合会、日本青年会議所東北地区青森ブロック協議会
五 留学生交流関係団体	国際ロータリー第2830地区、ライオンズクラブ国際協会332-A地区、青森県連合青年団、青森県地域婦人団体連合会、日本国際連合協会青森県本部、(社)青森県ユネスコ協会、(財)オイスカ産業開発協力団オイスカ活動青森県推進協力会、(財)青森県国際交流協会、(独)日本学生支援機構東北支部

- (2) 新たな構成員の加入については、会長は総会に諮り了承を得るものとする。
- (3) 推進協議会（総会）は、年1～2回開催し、具体的な事項は運営委員会に委ねるものとする。
- (4) 運営委員会は、推進協議会の目的に沿って具体的事項について検討するため、適宜開催するものとする。
- (5) 監事は、会長及び副会長所属機関以外の機関の運営委員をもって充て、会長所属機関作成の年度ごとの収支決算報告書を監査し、総会に報告するものとする。

2 運営委員会について

- (1) 運営委員は、推進協議会の構成員の属する団体等が推薦する者について、会長が委嘱する。
- (2) 運営委員会の委員長は、会長所属機関の運営委員をもって充てる。
- (3) 運営委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- (4) 運営委員会は、推進協議会の目的に沿って具体的事項について検討するため、適宜開催するものとする。
- (5) 留学生の受入れ側である高等教育機関の留学生受入れ等に関する情報交換を図るため、運営委員会の下に、留学生連絡会議（以下「連絡会議」という。）を置く。
なお、連絡会議の運営については、別に定める。

3 賛助会員について

- (1) 賛助会員は、構成員が推薦する機関・団体について、会長が委嘱する。
- (2) 賛助会員は、推進協議会の事業目的達成を支援するものとする。

青森県留学生交流推進協議会構成員・運営委員会委員名簿

(平成22年10月1日現在)

No.	機 関・団体名	構 成 員	運 営 委 員 会 委 員
1	弘 前 大 学	学 長 遠 藤 正 彦	国際交流センター長 倉 又 秀 一
2	青 森 大 学	学 長 末 永 洋 一	学 生 部 長 木 村 雅 大
3	東北女子大学	学 長 小 澤 薫	学 生 課 長 河 内 見 地 子
4	弘前学院大学	学 長 吉 岡 利 忠	国際交流委員長 佐 藤 和 博
5	八 戸 大 学	学 長 鈴 木 宏 一	国際交流委員長 藤 宮 芳 章
6	八戸工業大学	学 長 藤 田 成 隆	学 務 部 長 福 士 憲 一
7	北里大学獣医学部	学 部 長 伊 藤 伸 彦	国際交流委員長 大 浪 洋 二
8	八戸工業高等専門学校	校 長 井 口 泰 孝	留学生指導教員 今 住 英 子
9	青森公立大学	学 長 佐々木 恒 男	国際交流委員長 羽 矢 辰 夫
10	青森明の星短期大学	学 長 辻 昭 子	国際交流センター所長 福 士 洋 子
11	青森中央学院大学	学 長 中 村 信 吾	国際交流センター長 大 泉 常 長
12	青森県立保健大学	学 長 リボウィッツ よし子	国 際 科 長 尾 崎 勇
13	法務省仙台入国管理局青森出張所	所 長 鳴 海 明	所 長 鳴 海 明
14	青 森 県	知 事 三 村 申 吾	国際交流推進課長 高 坂 幹
15	青森県教育委員会	教 育 長 橋 本 都	学 校 教 育 課 長 中 村 充
16	青 森 市	市 長 鹿 内 博	指 導 課 長 三 上 雅 生
17	弘 前 市	市 長 葛 西 憲 之	企 画 課 長 高 木 伸 剛
18	八 戸 市	市 長 小 林 眞	市 民 連 携 推 進 課 長 野 田 祐 子
19	十 和 田 市	市 長 小山田 久	観 光 推 進 課 長 岡 山 新 一
20	(社)青森県経営者協会	会 長 井 畑 明 男	専 務 理 事 山 谷 清 人
21	青森県商工会議所連合会	会 長 林 光 男	幹 事 中 村 明 義
22	日本青年会議所東北地区青森ブロック協議会	会 長 石 橋 功 行	会 長 石 橋 功 行
23	国際ロータリー第2830地区	ガバナー 中 村 義 弘	米山奨学委員長 松 本 康 子
24	ライオンズクラブ国際協会332-A地区	ガバナー 小 関 力	YE委員長 清 野 一 彦
25	青森県連合青年団	団 長 川 井 若 奈	団 長 川 井 若 奈
26	青森県地域婦人団体連合会	会 長 向 井 麗 子	副 会 長 長 内 幸 子
27	日本国際連合協会青森県本部	本 部 長 (欠 員)	理 事 長 工 藤 政 宣
28	(社)青森県ユネスコ協会	会 長 脇 川 利 勝	理 事 長 和 田 耕 十 郎
29	(財)オイスカ産業開発協力団	代 表 中 村 亨 三	事 務 局 長 若 杉 保 直
30	(財)青森県国際交流協会	会 長 塩 越 隆 雄	事 務 局 長 東 和 生
31	(独)日本学生支援機構東北支部	支 部 長 鈴 木 研 一	支 部 長 鈴 木 研 一